

情報通信審議会 情報通信技術分科会 I T U部会（第 21 回）議事録

1 日 時

令和 5 年 5 月 18 日（木）14 時 00 分～14 時 30 分

2 場 所

Web 会議による開催

3 出席者

(1) 委員（50 音順(敬称略)）

伊丹 誠（部会長代理）、江崎 浩、上條 由紀子、三瓶 政一（部会長）

(2) 専門委員（50 音順(敬称略)）

今井 朝子、岩田 秀行、岡 敦子、小川 栄治、上村 治、古賀 正章、
寺田 健二、永沼 美保、西岡 誠治、藤本 正代

(3) オブザーバー

大坂 亮二（楽天モバイル）

(4) 総務省

田原国際戦略局長、内藤大臣官房審議官、杉本国際周波数政策室長

(5) 事務局

中里通信規格課長、重野国際情報分析官 他

4 議事

(1) ITU 電気通信標準化部門（ITU-R）における活動状況の概要

(2) その他

開 会

○三瓶部会長 それでは皆様、これより情報通信審議会情報通信技術分科会 I T U 部会第 2 1 回会合を開催させていただきます。

本日は皆様、御多用のところ御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

本日、委員 4 名全員の方が出席しておりますので、定足数を満たしております。

それでは最初に、総務省国際戦略局の田原局長から、御挨拶をお願いいたします。

○田原国際戦略局長 お世話になっております。総務省国際戦略局長の田原でございます。

本日は、お忙しい中、I T U 部会に御参加いただきまして、大変ありがとうございます。また、皆様方におかれましては、平素より情報通信行政に多大なる御支援をいただき、ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本日は、I T U 無線通信部門（I T U－R）における活動状況の概要ということで、まず事務局、総合通信基盤局より、その I T U－R の活動状況について御報告させていただくことになっています。

今年 1 1 月から 1 2 月にかけて、I T U－R の無線通信総会（R A－2 3）及び世界無線通信会議（W R C－2 3）が U A E のドバイで開催される予定となっています。これらのうち、R A、無線通信総会に先立って、この I T U 部会におきまして対処方針の御審議、一部答申をいただく予定になっておりますが、本日はそれに向けて、取組の現況の御報告という形になっているというところでございます。皆様方におかれましては、活発な御意見、御議論をお願いできれば幸いです。

簡単でございますが、私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議ですが、ウェブ会議となりますので、御発言の際はチャット欄に氏名を御記入いただき、マイクをオンにして、お名前をおっしゃってから御発言をお願いしたいと思います。

また、本日の会議の傍聴につきましては、ウェブ会議システムによる音声のみでの傍聴とさせていただきます。

それでは、まず、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

○重野国際情報分析官 配付資料の確認をさせていただきます。

資料につきましては、事前に電子メールでお送りしております。昨日お送りしておりますが、参考資料 2 1 - 1 のみ本日お送りしております。2 度、メールをお送りしておりますことを御了承ください。

議事次第のほかに、資料 2 1 - 1、I T U - R における検討状況概況、このほか、参考資料といたしまして、参考資料 2 1 - 1、I T U 部会構成員一覧、そして参考資料 2 1 - 2、R A - 2 3 に向けたスケジュール。

以上となっております。御確認ください。よろしくお願いいたします。

議 事

(1) I T U 無線通信部門 (I T U - R) における活動状況の概要

○三瓶部会長 それでは、議事に入りたいと思います。

議事は、I T U - R、無線通信部門に関する最近の動向についてでございます。

では、資料について、総務省から御説明をお願いいたします。

○杉本国際周波数政策室長 ありがとうございます。資料 2 1 - 1 に基づいて、総務省国際周波数政策室、杉本より御説明をさせていただきます。

1 ページ目をよろしくお願いいたします。こちらは、皆様におかれましては既に御存じのところではございますが、I T U - R における研究体制、こちらは一番上に当然 P P がありまして、その下に無線通信総会 (R A)、これが 4 年に一度で今年ございます。

その下に、スタディーグループ 1 からスタディーグループ 7 まで研究委員会があり、また、R A は 4 年に一度しかございませんので、毎年ということで R A G があるという構成になってございます。こちらを総務省では、総合通信基盤局の電波部の 7 課室、また情報流通行政局の放送技術課、計 8 課室でお支えているというところでございます。

また、本日の I T U 部会の傘下に 5 つ、I T U - R に関する委員会がございまして、こちらで国内の検討体制を整えているというところでございます。こちらの資料にもございますが、スタディーグループ 6 の議長、またスタディーグループ 4 ・ 5 の副議長職を我が国から輩出しているという状況でございます。

次、よろしくお願いいたします。

先ほど少し、いわゆる議長職について御説明させていただきましたが、下のワーキン

グパーティー、またラポータに至るまで、合計でございますが、延べ16名の方に議長、副議長を務めていただいているというところでございます。こちらをどのように評価するかというところでございますが、例えばですけれども、ワーキングパーティー以上のところで見ますと、全部でポストが四十幾つかということ、複数の方がいらっしゃるポストも1つだと数えるということになるんですが、そうすると、そのうちの4割ぐらいには日本人の方がいらっしゃるというところで、そういった意味で、ある一定の存在感をここは示せているのではないかなということになります。

こちらにつきましては、今年がRA、WRCの年ということになっておりまして、その後、次の研究期というものが始まります。次の研究会期においても、より多くの役職を獲得できるように、今、各国に働きかけをしているというところでございます。

次、よろしくお願いいたします。

続きまして、本年度の11月から行われるWRC-23についてでございます。3ページから次の4ページにまたがるということになりますが、こちらはまた数え方はいろいろあるかと思いますが、33の議題が取り扱われておりまして、それについて考え方をまとめて、それに従って対処を進めております。

全ての議題が重要ではございますが、あえて1つを選べということになりますと、我が国が主導して議題化したということもありますので、議題の1.4のHIBSが重要なのではないかなと、あえて選べばそうなるかなと思っております。こちらにつきましては、2.7ギガヘルツ以下のIMTに特定されている周波数の中から少し選びまして、高高度プラットフォームをIMT基地局にする。そういった使い方というのについて検討するものでございます。

ほかに重要なものと申し上げれば、新しいIMT用の周波数の特定、あるいは海上における遭難及び安全に関する世界的な制度、いわゆるGMDSSの近代化であったり、衛星、航空、アマチュア、非常に多岐にわたる議題が提案されてございます。こちらを情報通信審議会の委員会、民間事業者、各種の団体等と議論を重ねまして、WRC-23に対処していきたいと考えてございます。

次、よろしくお願いいたします。

以降、研究委員会等についての概況を御説明させていただければと思います。

まず、スタディーグループ1ですけれども、こちらは周波数管理に関する研究をするというところでございます。最近の動きと申し上げれば、例えばですけれども、ワイヤ

レス電力伝送（WPT）に対する議論というのが進んでおりまして、他の無線システムの混信を防止するための規則をつくっている。

また、テラヘルツ、275ギガヘルツを超える非常に高い周波数帯をどのように利用していくのか、ウオーキングスルースキャナーとか、こういったものに使えるようにするというので、そのための研究が行われているというところでございます。

次、お願いいたします。

続きまして、電波伝搬について検討いたしますスタディーグループ3ということになってまいります。こちらは、新しい無線システムを導入するということには必ず混信検討をしなければならないのですが、その前段として、電波特性がどうであるかといったところを研究するところでございます。

こちらに関しましては、例えばというところですが、我々がWRCで注目していると言っておりました高高度プラットフォームといったところに関しての電波の特性であるとか、高い周波数帯になりますが、Beyond 5Gにおいて使われるような新しいシステムについての電波伝搬の計算方法なんかについての研究が行われているというところでございます。

次、お願いいたします。

続きまして、スタディーグループ4、いわゆる衛星関係の業務をしているところでして、衛星放送、移動衛星などもございますし、また、無線測位ということに関しての研究などを行っているところでございます。こちらにつきましては、昨今、衛星に関しては非常に衛星コンステレーションを利用した新しい衛星通信システムといったものが導入されていて、こういったものに関連する議論が活発になっております。

一例、二例を申し上げますと、まずは移動する地球局、ESIMでございます。こちらに関しまして、航空機にこれを搭載するとした場合に、地上業務とどう共用するのか、その審査方法について、今、検討が進んでいるというところでございます。

また、衛星間リンクでございます。こちらは、低軌道衛星と固定衛星の間に通信を行うということが、今、新しくやりたいという方が増えておりまして、こういったものについて、どうあるべきかということがWRCでも議題にもなっているんですが、そういったものの検討が進んでいるというところでございます。

次、お願いいたします。

続きまして、研究委員会の4つ目、スタディーグループ5でございますが、こちらは

I M Tをはじめとした陸上移動、アマチュア、航空・海上移動など、地上業務全般に関する検討・審議が進められております。

最近の動きと申しますと、一つは、最初に申し上げた議題1.4、高高度プラットフォームに関する検討であったり、あるいは無人航空機に関する検討が、W R Cに関連して行われております。また、もう少し大きな話として、B e y o n d 5 Gを見据えて、I M Tの使用の検討などといったものがこちらで進んでいるというところでございます。

次、お願いいたします。

続きまして、スタディーグループ6、放送業務関連でございます。こちらに関しましては、名前のとおり放送のことということになりますが、最近の動きといたしましては、一つは地上デジタル放送の高度化に関する議論が進んでいるというところでございます。

また、先ほどの地上業務でもございましたが、将来の放送ビジョンがいかにあるべきかということで、そういった先々のことを考えた検討も、今こちらで進められているというところでございます。

次、お願いいたします。

続きまして、スタディーグループ7、科学業務ということでございまして、標準時、標準電波、電波天文などに関する課題をこちらで検討しているところでございます。

こちらに関しましては、W R Cに関連するものを一つ御紹介させていただくと、月面や深宇宙への利用などを検討されているところですが、今、二次業務とされているものについて、一次業務への格上げを検討しているというところがございます。こちらについては、我が国は既存業務があったりいたしまして、その意味におきまして、積極的に議論に参加させていただいているというところでございます。

次をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、R A Gでございます。R A Gにつきましては、4年に一度行われるR A、4年に1回しかございませんので、間を埋めるという形で毎年開催をされているというものでございます。

ちょうどこちらはゴールデンウィークのときにあったところなんでございますが、スタディーグループに関連するものといたしましては、ワーキングパーティーの議長の任期というものが少しございました。

こちらの議長の任期というのは、今、定められておりませんが、こちらを2期ないし

3期に制限するということと、そうはいいまして、後任がないというパターンも考えられるということで、そういった場合につきましては、2つのアイデアということで、例えば今の議長が指名をするとか、あるいは今の議長の任期を延長するといった案が提示されておりまして、今年のRA-23で議論をすることになると、冒頭申し上げました日本人の皆様の議長、副議長職といったものに影響がありますので、注意深く見守っているというところでございます。

また、もう1点申し上げると、WRCの参加について、一部の国からリモートでの参加を認めてもらえないかということもございましたが、こちらは条約を制定する会議ということで法的な制約があるので、リモートでの参加は難しいという結論になりまして、WRC-23に関しましては、現地参加者のみが議論に参加できるということで結論が出ております。

次、よろしくお願いいたします。

こういったことを踏まえまして、RAに向けた、WRCに向けた動きというところでございますが、もう一番右側の2023年に入っておりまして、大きな会議では、残すところ、APG23-6、あとは本番のRA-23とWRC-23というところでございます。

いよいよ本番の年というところでございまして、これまで国内で検討、審議してまいりました我が国の考え方が、きちんとこういったものに反映されるように努めていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの御説明に対しまして、御意見、御質問ございますでしょうか。

いかがですか。よろしいですか。特にございませんでしょうか。

では、特にないようですので、どうもありがとうございました。

(2) その他

○三瓶部会長 それでは、最後に、議題(2)その他に移りたいと思いますが、何か皆様からございますでしょうか。

よろしいですか。

ないようでしたら、以上をもちまして本日の議事は終了となりますが、最後に、今後の予定につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官 事務局でございます。

参考資料２１－２をお願いいたします。

次回のＩＴＵ部会につきましては、スケジュール表の右下のほうにございますけれども、１０月頃にＲＡ－２３に向けた一部答申を行うということを考えております。日程につきましては、部会長と調整の上、別途、事務局より御案内を差し上げます。このＩＴＵ部会では、第２２回での一部答申を踏まえて、ＲＡ－２３に臨むということになります。

私からは以上です。

閉　　会

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

それでは、以上でＩＴＵ部会第２１回会合を閉会いたします。本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

以上